



2021年  
特別号

# いつのときも、 どんなときも



公益社団法人広島県社会福祉士会：発行  
〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内  
TEL : 082-254-3019 FAX : 082-254-3018

Hacsw

## 「新年のご挨拶」

公益社団法人広島県社会福祉士会 会長 山中 康平



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平素より本会の事業へ積極的なご参加と組織の運営に対して多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年より新型コロナウィルス感染拡大の影響で、私たちが今まで安心して送っていた生活や健康が脅かされております。

このような状況のなかで当会の調査研究委員会では、新型コロナウィルスの感染拡大が福祉業務にどのような影響を及ぼしたのか把握し、今後の対策について検討するため、会員にアンケート調査を実施いたしました。アンケート的回答から、多くの社会福祉士が現場で利用者・対象者を守るため、試行錯誤しながら活動を続けている姿が見えました。

具体的に少し紹介させていただきます。

- ・外出自粛や感染予防に対する考え方の違いが、人々の人間関係に摩擦やトラブルを生じさせる等社会的孤立を招いた。
- ・外出自粛で利用者の身体機能の低下を招いた。
- ・面会、イベント自粛で職員以外の人と接しない単調な生活で意欲の低下や認知症の進行につながった。
- ・保護者や家族の収入が減少し、サービス利用や受診を控える人が増えた。
- ・作業工賃の減少や障害者の自立生活に影響が出ている。
- ・同居家族が感染拡大地に行き来があった場合はサービス利用ができない、という施設の慎重な対応で利用制限があった。
- ・現場の職員数を確保しなければいけないプレッシャーや緊急事態に備え精神的に疲弊している。
- ・感染対策に関する業務が増加した。
- ・職員や入所者の体調管理、感染対策のための手順書、面会中止や家族へのお知らせ、関係者への理解、依頼、周知徹底、会議連絡調整等の業務が増えた。
- ・対面で行っていた家庭訪問や面談が減り、状況が把握しにくい。虐待件数の増加も課題となっていた。



### 特別号発行によせて

今回の広報紙は、会員のみなさまだけでなく、社会福祉士の活動を大切にして下さっている関係諸団体の方々にも、会の内容について紹介させて頂きたい思い、特別号として発行しました。「いつのときも、どんなときも」支えになれる社会福祉士としての活動を、多くの方々にお知らせできたらと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



- ・行動制限により、連携や十分なサービス提供ができない。
- ・各事業所が集まる会議などが実施できない等連絡が取りづらくなってしまった。
- ・職員やその家族の行動制限にも気を配らなければならない。

以上のように新型コロナウイルスの感染拡大に起因する多岐にわたる福祉課題について、行政や関係機関と連携し、その課題解決に向けて当会として何ができるのか検討しているところです。

また、人間の尊厳と社会正義の実現をその使命として倫理綱領に掲げる専門職団体であり、県民の福祉の向上のため、行政および関係機関とともに、感染症等の患者の人権を擁護し、あらゆる人々が排除されることのない地域共生社会の実現を目指すと共に、早期に平穏な日常生活を取り戻すことができるための活動を積極的に行います。

最後になりますが、当会の活動にご理解いただき、皆さまのご協力を得ながら本会の事業を今年も推進していきたいと思っております。

大変な時期ではございますが、皆さまのご健勝とご多幸、そして地域社会の発展を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

## 社会福祉士会での様々な活動について

当会には数多くの委員会が設置されています。事業の企画・研究・調査等の推進を目的として、継続的または期間を定めて活動しています。その活動は、高齢、障害、児童家庭、医療、地域社会、多文化共生など多岐にわたります。

### ◎総務委員会

総務委員会では事務局と協働し、予算の執行管理や組織運営に関するなどを総合企画会議を開催し協議を行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で県士会の行事など大幅な予定変更を余儀なくされました。次年度は今後の状況も見据えた組織運営に努めていきたいと考えています。(委員長 赤山 亮)



### ◎調査研究委員会

調査研究委員会では、主に次の3つの活動を行っています。①社会福祉における実践課題を広く一般の方に知っていただくために、社会福祉政策勉強会の開催 ②社会福祉士の専門的実践力を担保し、地域住民の福祉向上に貢献するため、認定社会福祉士養成カリキュラムの作成 ③社会福祉の改善と県民の福祉向上並びに社会福祉士の資質向上のため、研究機関である社会福祉実践研究所による研究支援

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、勉強会や研修会の開催ができませんでした。そこで、「新型コロナウイルス感染症が福祉施設・機関に与えた影響に関する調査」を実施し、感染拡大による福祉現場の課題等の状況把握を行い、更なる感染拡大や新たな感染症発生時の対応策について検討を行っています。これからも、社会福祉士の資質向上をはかり、地域住民の皆さんの福祉向上に貢献できるよう活動を行っていきたいと思っています。(委員長 印藤 牧絵)

### ◎広報委員会

会員そして県民のみなさまに、広島県社会福祉士会の活動をはじめとして、日常業務に活用できる情報、我が身の実践を振り返れる情報、ホッと一息がつける情報などを、会員向けの会報誌「会員便り」、福祉関係団体等に向けた「いつのときも、どんなときも」を通じて提供させていただいている。みなさまからのご意見等も取り入れながら、おもしろく・わかりやすく・ためになる。そのような参加型の広報紙を目指して取り組んで行きたいと思っています。(委員長 巴 直樹)



## ◎生涯研修委員会

生涯研修委員会では基礎研修の運営、スーパービジョンのコーディネートを行うなど認定社会福祉士の取得を支援する委員会活動をしています。今年度につきましては新型コロナウィルスの影響で基礎研修を全面的に中止という苦渋の決断を致しました。また、スーパービジョンにつきましては、Webを活用したスーパービジョンのみ実施をするという限定的な方法をとっており、会員の皆様にはご迷惑をおかけしております。次年度は情勢を見ながらWebを活用した研修運営も視野に入れて社会福祉士の資質向上へ向けた取り組みが再開できるように検討していきたいと考えています。(委員長 赤山 亮)

## ◎障害児者支援委員会

今年度は委員会活動を活性化すべく、委員を募集し、取り組みを見直す計画を立てましたが、なにも進めない1年となりました。2010年度からかかわってきているハンセン病回復者支援事業については、電話応対を基本として支援を行っています。県内には10名弱の回復者がおられます。コンタクトを取っているのはおひとりのみです。また、毎年9月に行っているリカバリーパレード「回復の祭典inひろしま」も中止となりました。来年は活動が再開できることを願ってやみません。

(委員長 廣森 明子)

## ◎独立型社会福祉士委員会

当委員会は、2005年に発足後「地域で必要とされる独立型社会福祉士の誕生・発展を支え、県民の福祉の向上を目指す」ことを長期目標に掲げて活動を行っています。今年度は、「独立型社会福祉士に関心のある人たちを発掘する」を目標のひとつに、県内で法人等に所属されず活動されている方へお声かけております。今年度の委員会に関しても、感染予防の観点からWeb形式での開催も検討しておりますので、関心をお持ちの方はご参加いただければ幸いです。(委員長 牧 洋至)



## ◎地域包括ケア推進委員会

地域包括ケア推進委員会は、地域共生社会に向け、社会福祉士としてのネットワークをつくり、学び合える場ができるような研修計画を提供していきたいと考えております。毎年、「高齢者虐待対応研修」を開催しています。今年度はコロナ禍であり研修の開催の見合わせを検討しましたが、コロナ禍での家族や本人の精神的ストレス、経済的理由などから高齢者虐待が全国的に増加傾向であるため、「3密」を避け開催をさせていただくこととなりました。また、今年度は開催することができませんでしたが、地域づくりの担い手となるよう「コミュニティーソーシャルワーク研修」などの組み立てをさせていただいております。今後も、研修を通じネットワークの構築に努めます。皆様と共に学びあえたらと考えておりますので、一緒に活動に参加していただける方をお待ちしております。(委員長 長谷川 佳子)

## ◎子ども家庭支援委員会

今、子どもを取り巻く環境は、いじめ、貧困、虐待など、複雑化、深刻化しています。特に2020年は、新型コロナウィルス感染症の問題から、学校の休校や自宅での親のテレワークの影響もあり、子ども虐待がさらに増加している兆候も指摘されています。社会問題の影響を非常に受けやすいのが子どもたちではないでしょうか。当委員会は、子どもと子育て家庭の福祉の推進を目的とし、子どもの権利擁護を軸に、地域社会、学校等関係機関と連携し、研修、啓発活動を行っています。また、県内の子ども家庭支援活動団体とのネットワークや各種会議に参加しています。今後も感染症対策を講じながら、オンラインを活用した研修や勉強会を企画していきたいと思います。未来を担う子どもたちが、笑顔で過ごせる社会を目指し、今だからこそ出来ることを一緒に考えていきませんか。(委員長 徳永 文)



## ◎次世代育成委員会

社会福祉士の実習生を迎えたとき、社会福祉士を志すきっかけをお聞きします。実習生から「社会福祉士に相談して救われた。自分もそういう仕事をしたいと思った」というお話をお聞きします。私たちの中の誰かが、辛い時に支え、社会福祉士を志すきっかけを作っている、と思う機会に出会います。私たちは、自身の職務の中で、あるべき専門性を發揮することで次の世代を育てている、ということだと思います。とても、素敵なことだと思い、聞かせていただいています。次世代育成委員会では、実習指導者講習会やソーシャルワーカーディ イベントなどの活動を通して、次世代を育て、相談職の認知度のアップに取り組んでいます。次世代育成委員会活動にご参加いただける方、お待ちしています。(委員長 中村 真和)

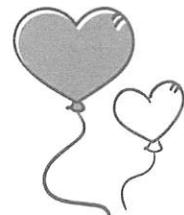
## ◎司法福祉委員会



司法福祉委員会では、今日的課題の研究及び人材育成、司法福祉認証研修の運営に取り組んでいます。今回は、再犯防止推進に関する取り組みについて紹介します。一般的に、罪に問われた人の再犯防止の強調ではなく、多次元的な社会的排除を問題視して地域において、司法・更生保護・福祉・医療・居住・就労・福祉コミュニティ（居場所）つくり等の一体的支援の体制を作り、個人の日常生活・社会生活上の基本的ニーズを満たす地域生活支援を図ることが結果的に「再犯防止」につながると考えています。また、司法と福祉に関わる更生支援（個別支援計画）を担う人材育成と刑事手続き過程の入口の局面で不起訴・執行猶予等で地域に帰る人が多いので、入口支援の強化にこれからも研修などを通じて取り組みます。最後に、人材確保として、外国人に留まらず罪に問われた人を含めてマンパワーを活かす、地域共生社会の形成に取り組みます。(委員長 藤尾 正彦)

## ◎災害被災者支援委員会

私たち災害被災者支援委員会は、広島県内外に発生した災害について支援活動を行っている委員会です。委員会として、平時より災害支援体制を構築し、広島県等行政とも支援協定を締結することにより、いざ発災した場合に速やかに支援者を募り被災地に派遣すること、また派遣された会員への支援も行えるよう努めています。



災害時の社会福祉士としての具体的活動内容は、災害ボランティアセンターでの運営支援、被災地における個別訪問調査、相談会支援等多岐に渡ります。また、弁護士会、建築士会、技術士会、介護福祉士会等の専門職団体 15 団体からなる「広島県災害復興支援士業連絡会」にも参画し、広島県、広島市、広島県社協との協定に基づいて複数の専門家がワンストップ型で、有機的に災害支援を行えるよう協力体制を築いています。2020 年は、新型コロナウイルスによる社会生活の変貌を余儀なくされました。感染の拡大という事象を「災害」と捉え、多様化する被災者支援に取り組んでまいります。

(委員長 三上 和彦)

## ◎地域生活定着支援センター

広島県地域生活定着支援センターは、高齢の方や障害のある方が、矯正施設から退所した後に、福祉サービスの利用を援助することなどにより、地域の中で安定した生活を営むことができるよう支援しています。広島県社会福祉士会が広島県から事業を受託して、今年で 11 年目です。10 年以上が経過しましたが、当センターのことを知らない人、「刑務所にいた人」って私たちには関係ないと感じている人も多いです。私自身、4 月にこのセンターで仕事を始めるまで、そうでした。しかし、このセンターで多くの人に会い、必要な支援を十分受けることができていなかった人がとても多いと感じ、「知ること」の大切さを実感しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年行っている講演会を今年度は中止しましたが、現状を知っていただく取組みは、進めていきたいと思っています。(センター長 仁井 恭子)



## ◎若年性認知症サポートルーム運営委員会

若年性認知症の施策は、近年では「新オレンジプラン」の施策推進に掲げられるなど、社会課題の一つになっています。そこで、広島県社会福祉士会では広島県から若年性認知症施策総合推進事業を受託し、「若年性認知症サポートルーム運営委員会」を設置しました。当委員会では、各機関と連携しながら若年性認知症の課題に取り組んでいます。主な活動は、若年性認知症支援コーディネーターによる“相談支援”、集いの場などを構築する“ネットワークづくり”、各種イベントへの参画やネットワーク研修の実施などの“普及・啓発活動”です。本年度は、コロナ禍の影響で一部の活動が制限されました。しかしながら、若年性認知症支援コーディネーターによる個別相談件数は年々増えており、対象の方や各関係機関へ徐々に浸透しているように思われます。今後も、若年性認知症の方やご家族が安心して生活できるよう、一層の支援の充実に努めています。

(委員長 吉岡 孝二)



## ◎第三者評価委員会

現代では、様々な場面で評価を受けることがあります。良い評価だと、うれしいと感じますし、悪い評価は望ましくないと感じます。ただ、評価を受けることで大切なのは、それをどう生かせるかです。第三者からの評価を受けることで、気づきをもらうこと、また、その気づきからより質の高いサービスへ向けてのきっかけになること、また自らの強みを知り、アピールできること、その支援を行うのが福祉サービス第三者評価です。評価する者にとっても新たな気づきをもらうことができ、成長につながります。第三者評価委員会では、一緒に活動してくださる方を募集中です。第三者評価者養成研修を受講する必要があります。まずはお気軽にご相談ください。(委員長 兼池 麻子)

## ◎ぱあとなあ運営委員会

「権利擁護センターぱあとなあひろしま」では、「県民の権利を守る」ことを目的に成年後見制度に関連した活動を展開しています。

1つ目は、成年後見制度を利用しやすくするための活動です。例えば、研修や勉強会で成年後見制度の説明をしたり、定期的な個別無料相談会を開催したりしています。また、県内の市町や他団体と連携して、各地域で成年後見制度の利用が促進されるような取り組みを行っています。

2つ目は、福祉領域の専門職として成年後見人等を担う活動です。定められた研修を修了した権利擁護センターぱあとなあひろしまに所属する社会福祉士が、家庭裁判所から依頼のあった案件について成年後見人等を受任します。こうした活動を通じて、県民の皆さまの権利が守られるように頑張ってまいります。(委員長 松谷 恵子)



## ◎ホームレス支援委員会

ホームレス支援委員会の活動は、野宿生活者と出会い、関係性を築きながら、その人の希望するタイミングで「畳に上がる」支援を行ってきますが、畳に上がる=住まいを得る、がゴールではありません。「野宿生活をしていた時の方が、仲間同士の会話もあったし歩き回ることで足腰も丈夫だった。家に入ったら誰とも話をしなくなった、かえって孤独になった、することがなくなった・・・」ということのないようにしたいのですが・・・今日、孤独死として発見されたMさんは、支援への感謝の気持ちを込めて、市内の公園を自ら進んで清掃して回っておられた方です。家に入られてから、一気に体が弱り、ボランティアもできなくなっていました。もっと話を聞いてさしあげればよかった！ この反省を、次の活動に結びつけていきたいと思います。(委員長 鈴川 千賀子)



## 支部からのお知らせ

当会は4つの支部があります。各支部それぞれが、定期的に集まり情報交換や勉強会を開催しています。年明けにはWebを利用した活動を検討しています。



### 西支部

西支部は、広島市、大竹市、廿日市市、安芸高田市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町を活動エリアとしています。今年度、西支部では『多くの会員が参加したくなるような、魅力のある支部活動を行う』を目標に掲げ、研修会・勉強会の計画を立ておりましたが、コロナ禍で多くの活動が休止を余儀なくされました。現在、西支部ではWebを使っての勉強会を企画中です。詳細につきましては、近日中にホームページに掲載させていただきます。Web中心にはなりますが、会員同士のつながりが持てる機会です。皆様のご参加をお待ちしております。(西支部長 原本 明美)



### 東支部

東支部は三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町にお住いの方や職場がある地域の方が対象の支部です。東支部では支部活動の目的を『顔の見える関係づくり』を目標に掲げています。今年度は新型コロナウィルスの影響もあり、活動は全く行えておりませんが、次年度にはWebも活用した活動も検討していきたいと考えております。日々変わる情勢に臨機応変に取り組んでいきたいと考えております。(東支部長 赤山 売)



### 北支部

北支部は、三次市・庄原市を中心に活動しています。県内の支部では、会員が約60名と最も少ないですが、顔の見える関係づくりを目的に研修会への参加を呼びかけています。10月10日には、“福祉サービスを活用した家族支援(8050問題・ひきこもり・生活困窮者を多職種で支援)”をテーマにZoomによる研修会を実施しました。また、2月20日には、災害[被災者]支援をテーマにZoom研修会を予定していますので、ご参加ください。詳細は、ホームページなどでお知らせします。(北支部長 藤尾 正彦)



### 中南支部

中南支部は呉市、東広島市、江田島市、竹原市、大崎上島町の会員から構成されています。今年度も終わりに近づき、この広報誌で今年度の活動報告概況をお伝えしなければならないところですが・・・。全く今年度は活動ができておりません。理由は皆様もご理解いただけるかと思いますが、世間を騒がせているあのウイルスです。昨年の今頃は、正直ここまで騒動となるとは思っておりませんでした。すぐに騒動も収まりすぐに活動が再開できるかと考えておりましたが、春になり騒動は一層ひどくなり、夏になりその騒動は収まらず、秋には支部地域内でクラスターも発生し、この原稿を書いている12月現在は第3波の真っただ中です。しかし、このまま事態の収束を待っているだけで良いのか?とお考えの方も多いかと思います。県社士会内各委員会等でもWebを使った会議や研修など、withコロナ時代の活動が始まっております。中南支部も負けずに活動を再開したいと思います! 皆さまよろしくお願ひいたします。(中南支部長 駄賀 健治)

#### 編集後記

- 周りの方とコロナが終わったらやりたいことリスト作ってます。実現するぞ!(坂本) ●体重の増加が止まりません。原因は自粛ではなく不摂生のためだと分かっているのがおつらいです…。(酒井) ●「密」という字が選ばれる一年でしたが来る年にはぱあーと明るい字が選ばれる事を信じて…(藤浴) ●目が合う・手が触れ合うことの大切さを感じる年明けです(杉本) ●寒い!換気が大切っていわれているからカイロ貼って頑張ってます(幸本)
- 「関わりの中でのある些細な事からでも、人は感動を受け、そして新たな動きへと繋がる。そのようなきっかけ1つで、人は変わるものなんだ…」感銘を受けたある本の一文です。(巴)

